



磐梯町デジタル変革 令和3年度の取り組みの方向性

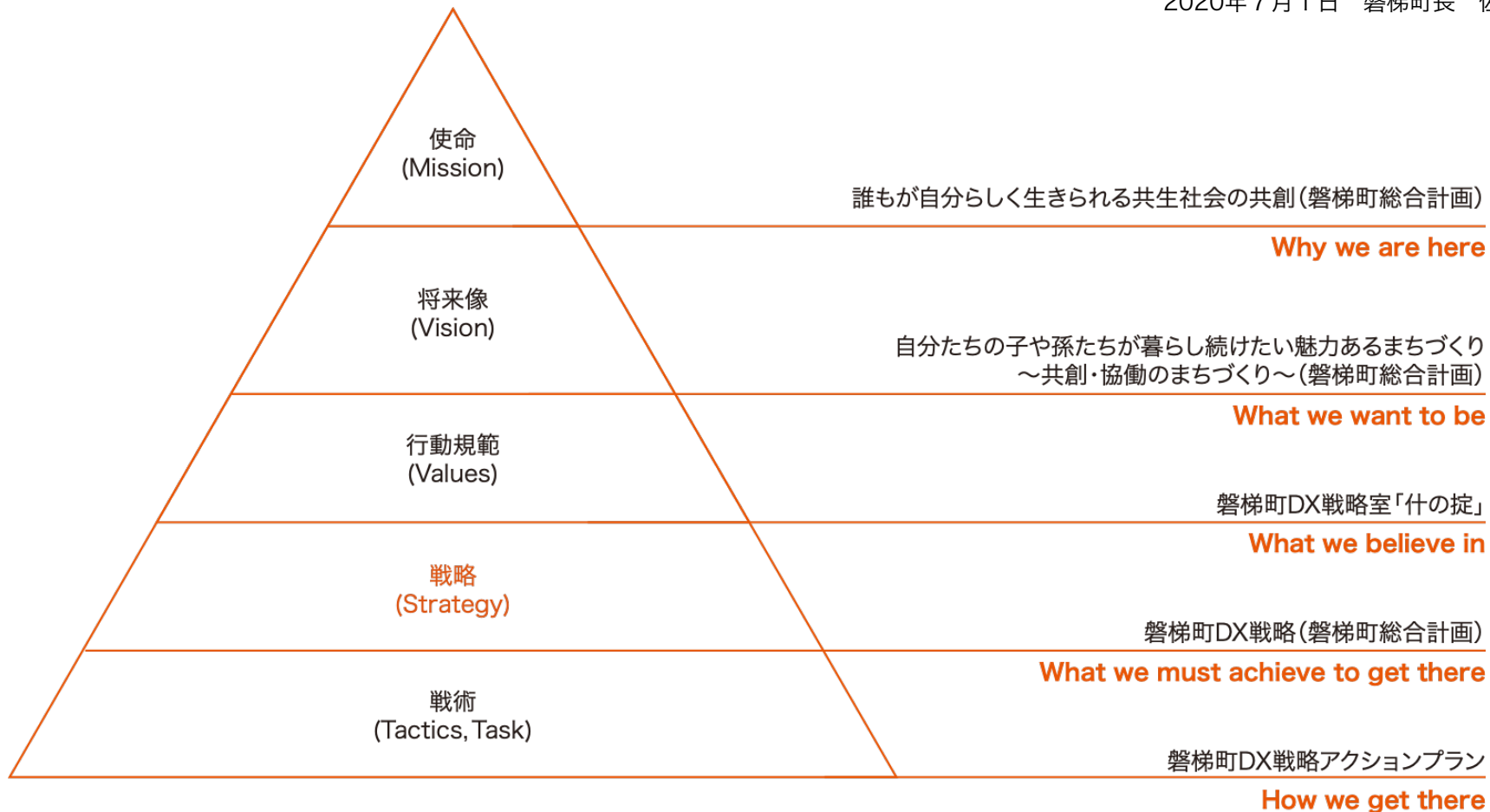
2021年2月 磐梯町デジタル変革戦略室



はじめに～ 磐梯町デジタル変革戦略の位置づけ

磐梯町デジタル変革戦略(通称：DX戦略)は、磐梯町総合計画(2020年3月)の策定を受けて設置されたデジタル変革戦略室が、同計画の将来像である「自分たちの子や孫たちが暮らし続けたい魅力あるまちづくり」や同室の使命である「誰もが自分らしく生きられる共生社会の共創」を、DX(デジタル変革)を通じて具現化するために策定された戦略です。

2020年7月1日 磐梯町長 佐藤淳一

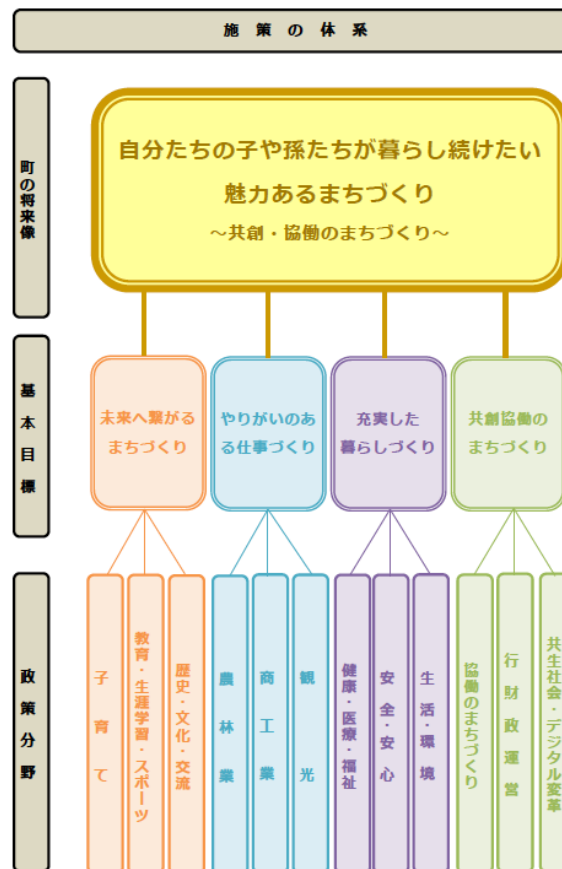


磐梯町総合計画(ミッション・ビジョン)

磐梯町総合計画



令和 2 年 3 月
福島県磐梯町



- 14 -

名 称 磐梯町総合計画

制 定 令和 2 年 3 月

① 「共生社会・デジタル変革」の項目を新設
(日本の自治体で初めて)

特 徴 ② 構想から 6 ヶ月間で、自前で策定

③ 国土強靱化計画も兼ねる(福島県内の自治
体で初めて)

備 考 DX戦略にかかる全ての根拠はこの総合計画
の中にあります。



磐梯町DX戦略の「什の掟」(行動規範)

「什の掟」：会津藩では、同じ町に住む六歳から九歳までの藩士の子供たちは、十人前後で集まりをつくっていました。この集まりのことを会津藩では「什（じゅう）」と呼び、そのうちの年長者が一人什長（座長）となりました。毎日順番に、什の仲間のいずれかの家に集まり、什長が「お話(什の掟)」を一つひとつみんなに申し聞かせ、すべてのお話が終わると、昨日から今日にかけて「お話」に背いた者がいなかったかどうかの反省会を行いました。[\(会津藩校日新館HPより\)](#)
「磐梯町DX戦略室『什の掟』」は、「什の掟」をDX戦略室の構成員等の行動規範として、アレンジしたものです。

一、住民本位でなければなりません

行政は、住民のためにあることを肝に命じて、常に行政事務や事業のUI(住民接点)、UX(住民体験)の向上に努めるようにしましょう。また、住民本位の次に顧客本位(町外の人々)、職員本位も意識し、みんなに魅力ある磐梯町にしましょう。

一、誰一人取り残してはなりません

民間企業のDXと違い、行政のDXは相手を取捨選択できません。共生社会実現の視点から、すべての住民や職員がDXの恩恵に与れるようにお互いを気遣っていきましょう。

一、言葉や他者に踊らされてはなりません

何が住民本位であるかを常に自分の頭で考え、同僚と対話し、行動するようにしましょう。本当にやるべきことがわかっているならば、次々と生まれる流行り言葉や、他者からの甘言に惑わされることはありません。なお、流行り言葉は活用しましょう。その場合、注釈を加えましょう。

一、本当の価値を評価しなければなりません

私たちがDXを通じて行うべきは町の将来像と共生社会の実現であり、住民本位の価値の提供です。前例という「カタチ」に捉われず、「カチ」を評価し、共創しましょう。

一、できない理由を並べてはなりません

住民本位の価値があると信ずる道があるならば、できない理由ではなく、できる理由を考えて、行動しましょう。住民を役場や制度の都合に合わせるのではなく、私たちが変わらしましょう。

一、行動し、挑戦しなければなりません

どんなに重厚な計画書や戦略も行動と結果が伴わなければ意味がありません。自治体のDXはまだ誰もが見ぬ道です。リスクを恐れず、挑戦しましょう。

一、失敗を責めてはなりません

行動や挑戦には時として失敗が伴います。挑戦した者を讃えましょう。あわせて、失敗は共有して、反省して、次に活かしましょう。

一、データ・事実と結果を軽視してはなりません

主観ではなく、客観(データ・事実)に基づいた取り組みを進めましょう(証拠に基づく政策立案)。そして、アウトプット(出力)だけでなく、どのようなアウトカム(成果)を目指しているのかをしっかりと認識しながら取り組みましょう。

一、目的と手段を取り違えてはなりません

常に今の行動が何のためにあるのかを考えましょう。特に手段が目的化しないように、細心の注意を払いましょう。

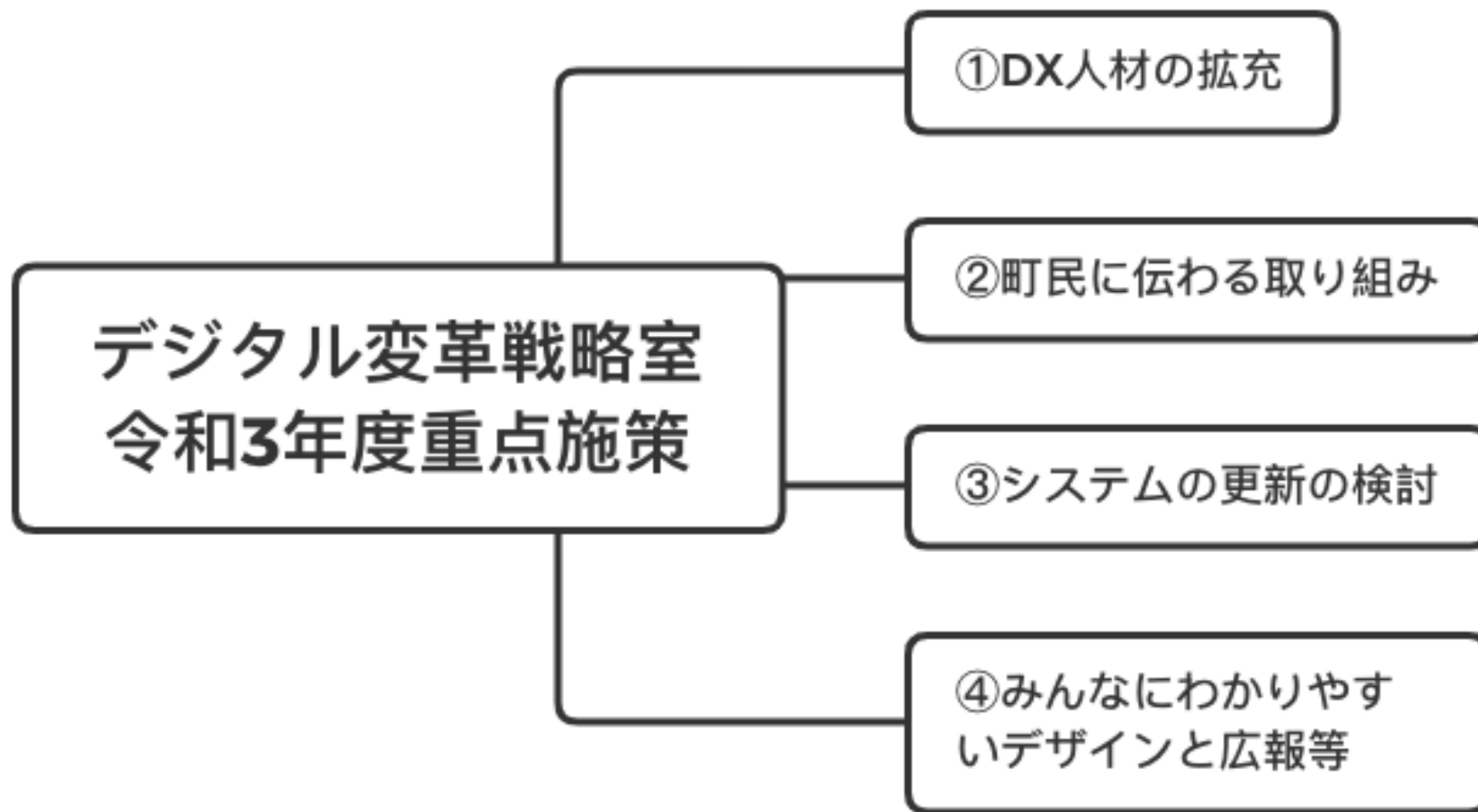
一、感謝し、他の模範とならねばなりません

私たちの取り組みはすべて先人の取り組みの上に成り立っています。このことに感謝し、DXを通じて、私たちが新しいカチをカタチにして、磐梯町だけでなく、日本を変えましょう。

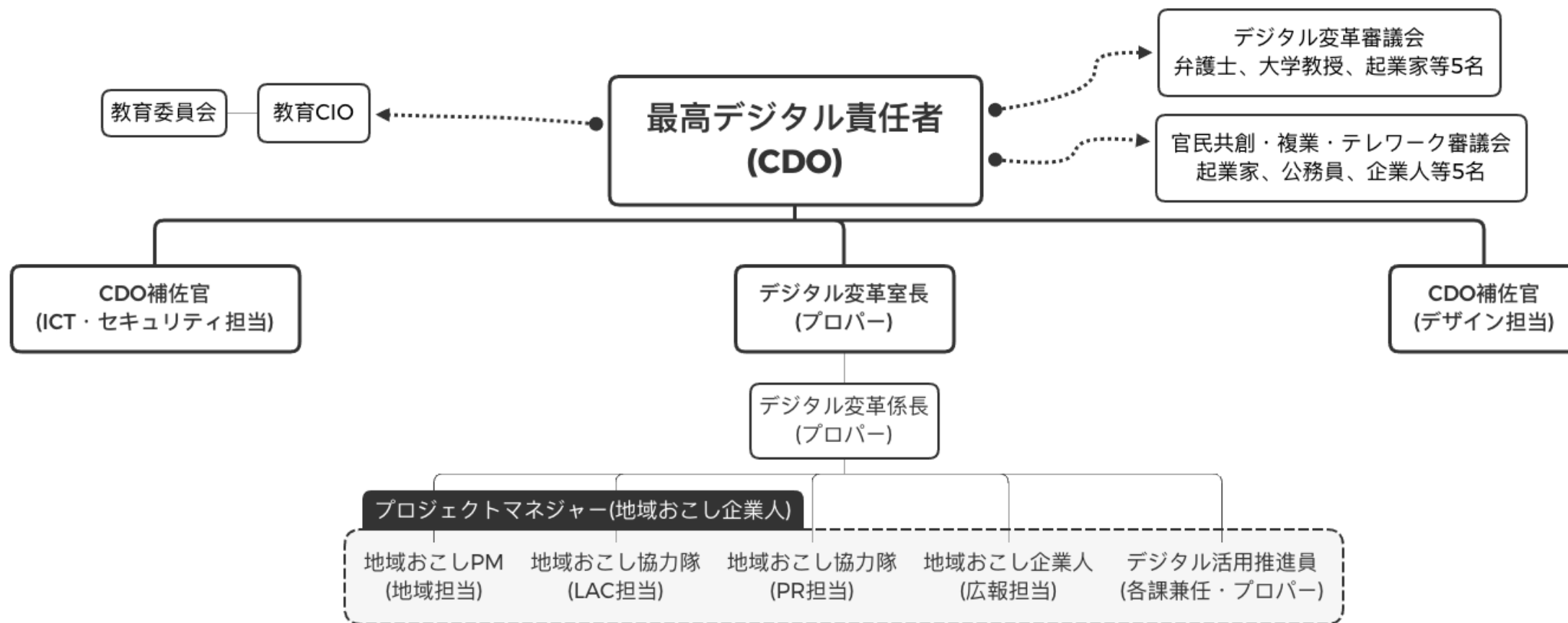
ならぬことはならぬものです。



デジタル変革戦略室令和3年度重点施策



①DX人材の拡充(来年度のイメージ)



②町民に伝わる取り組み

検討中のものも含めて、全ての課が町民に伝わるDXの取り組みに挑戦します。

担当課	検討内容	課題	町民のメリット
政策課	MaaS	公共交通が少ないため、町民が不便を感じている	移動の自由度が高くなる
	空き家対策	放置されている空き家が散見される	遊休資産が活用され、町が活性化する
総務課	シェアカー(駅前)	町外の訪問者の移動手段がない	町外の人々が訪れることで、町が活性化する
	ふるさと納税の拡充	財政が厳しい	町民サービスが拡充される
町民課	マイナンバーカード100%	普及率が依然として低い	ワンストップで行政サービスを受けられる
	窓口オンライン化	役場に来なければ、行政手続きができない	どこにいても行政手続きがオンラインで完結する
	AIスピーカー・タブレットの配布	高齢者の中に端末を持たない人がいる	様々な情報にアクセスすることができる
	DX井戸端会議	コロナ禍で対話の機会が減っている	新しい生きがい生まれる
農林課	鳥獣被害対策	鳥獣の被害が農作物に及び人に危害を加える	より安心して暮らせるようになる
	スマート農業	担い手不足と生産性の低下	農業の可能性が広がり、新しい人材も参入する
建設課	除雪車・道路管理等のスマート化	インフラ等の維持管理のコスト	維持管理コストが低減される
商工観光課	デジタル通貨	地域内経済の低迷	地域活性化につながる
文化課	文化財3D化	魅力的なコンテンツ拡充の必要性	訪問客の増加
教育課	GIGAスクールの推進	コロナ禍により学習機会が減少する	いつでも、どこでも子供たちが学習できるようになる
	公共施設予約システム	予約のために施設に足を運ぶ必要がある	予約にかかる労力が激減する
こども課	コドモンと子育て支援のDX	保育園、幼稚園、小中学校の連携がない	デジタルで一気通貫の支援が可能になる
出納室	決済支払い方法のオンライン化	現金の扱いが依然として多い	決済業務が迅速になり、利便性が向上する

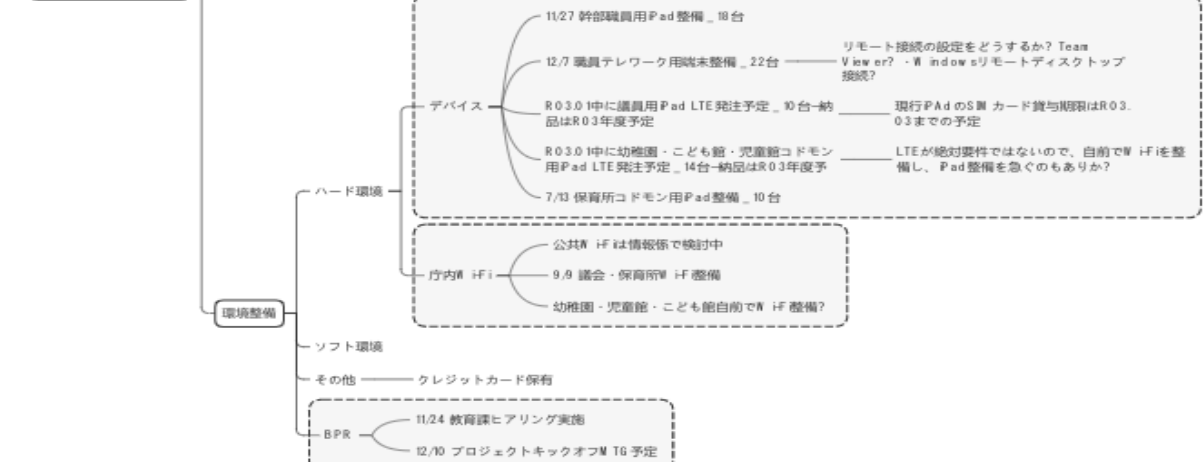
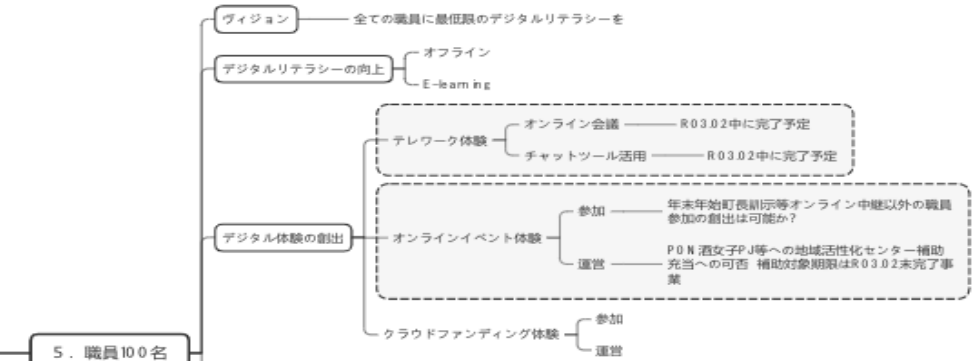
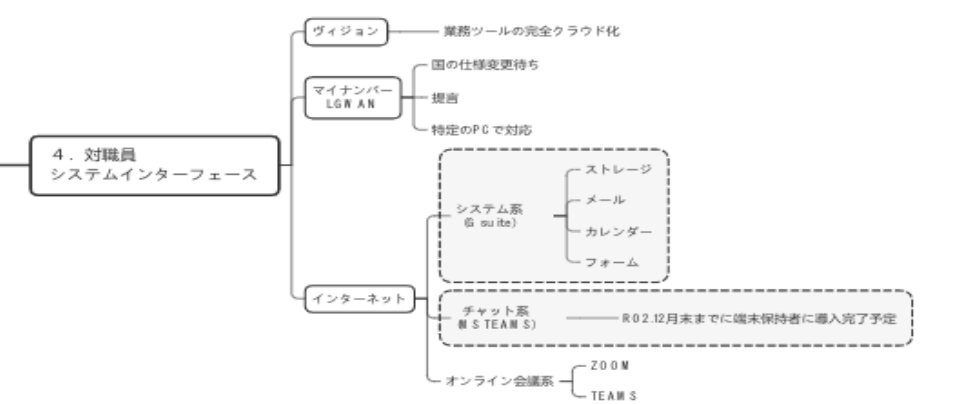
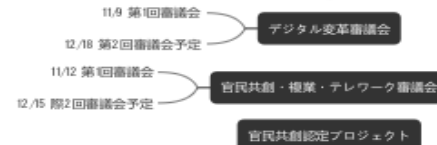
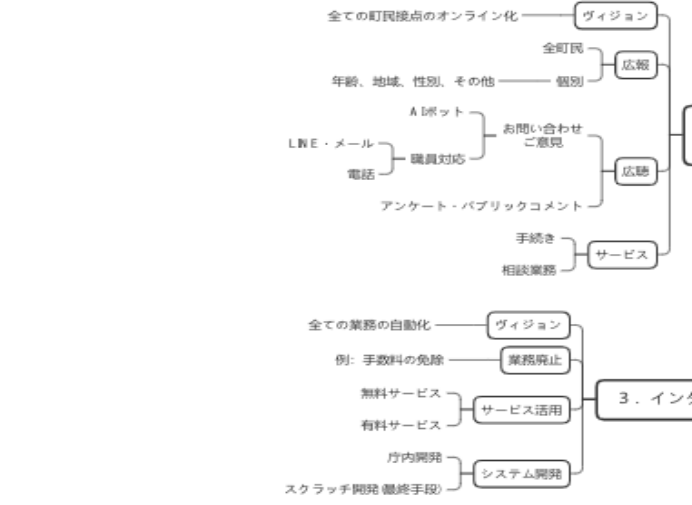
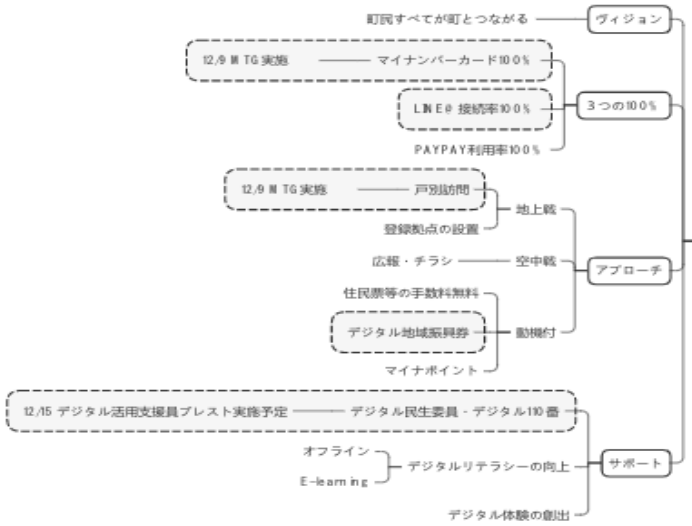


③行政DX～システム更新の検討



磐梯町「行政のDX」 全体設計

ビジョン 全てがオンラインで完結 する町役場



④みんなにわかりやすいデザインとPR等

- 議会への定期的報告の徹底
- 役場内の職員への情報共有の徹底
- 弘報やホームページの見直しの検討
- 町民本位の行政サービスと役場への再設計
- BPRの徹底
- 官民共創認定プロジェクト宝ラボ
- 県及び近隣市町村との連携

